



開会あいさつ

実行委員長
中国・地域づくり交流会 会長
平岡 敬 氏

全国から若い方々が、この広島に集まっていたり、地元を代表して心から歓迎申し上げます。この大会はご承知のとおり、この3月に京都、大阪、滋賀で行われました世界水フォーラム。その分科会の世界子ども水フォーラムのフォローアップを広島で開催することになりました。

この春、学んだことを太田川という場でさらに確かめ、深め、そして実践し、お互いに情報交換し合うという趣旨で、国土交通省、河川環境財団、太田川たんけん協会が一緒にになってみなさんと会を開くことになりました。

今日、私たちは、広島駅から可部線に乗って開催地加計町に来ました。みなさんが乗ってきたこの可部線は、まもなく消えていくことになります。今、世の中は民営化と言うことがよくいわれています。その民営化は良い面もあるのです。しかし、可部線の廃線は民営化の悪い面ができたような感じがします。つまり、採算のとれないものは切り捨てていくということですね。ところがこの地域にはたくさん的人が住んでいます。その人達の心の支えであった可部線が消えていくということは、本当にいいのでしょうか。採算が合わなくても、国民の幸せを支えていくことも必要です。そういう装置をきっと維持していくのは国の役目であり、また、地方自治体の役目であると私は思っています。

これは決して水と無関係ではありません。つまり、水の問題を考える場合に、経済的な利益ばかりを優先しては、本当に水を守っていくことはできない。と思ったから、今日、可部線のお話をいたしました。そういうことを頭に入れながら、この3日間、みなさんが今まで学んできたこと、そして、これから自分の生きていく生き方、そういうことをお互いに考えていただければ幸いだと思っています。

この大会を開くにあたりまして、加計町、さらに商工会のみなさん、そして地元の方々には大変お世話になりました。心からお礼を申し上げます。

開会あいさつ

国土交通省
河川環境課長
岡山 和生 氏

今日は、全国から元気な顔がこれだけ集まって大変うれしく思います。

「ゆく川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という言葉がありますが、この水は何処からくるか。雨が山に降って川に流れてくるのですが、もとを正せば海水が蒸発して、雨になり川に流れて海に戻っていく、この大きな水の循環があります。こういう水循環がある星「地球」、この水の惑星の特徴です。

そして、みなさんの身体は70%が水でできています。赤ちゃんは80%といいます。頭の脳味噌も70~80%は水分です。しかしこの身体の水も、体内にすーと留まっているわけではなくて、毎日、毎日、入って出ています。山から流れ来た水を私たちは飲んで、身体をとおって外に出ていき、海へ戻っていきます。この大きな水循環の中に我々の身体も含まれていますし、いろんな生物も一緒にこの水循環の中の一つです。

この島国、日本にはたくさんの人が住んでいます。川を利用したり、洪水から守るには工事をしなくてはいけませんし、また自然との共生も考えいかなければならず、今後、私たちは先程の水循環という仕組みに留意し、水を大事にしながら、水と上手く付き合っていく知恵が必要です。

今年3月に開催された、世界水フォーラムで日本の子供たちは、世界の子供たちと話し合って、世界各国で水の事情が全然違っていることに気付いたと思いますし、日本の水の使い方、付き合い方も、非常に特殊で、これがまた、日本の文化でもあるということを学びました。今後、人々が川と上手に付き合っていくには、皆さんのような若い方々がこのように、交流や意見交換を行い、たくさんの魅力をもっている川や流域のことを常に考えて生活してくれることが必要だと私たちは思っています。

この会を開くにあたり、加計町をはじめとして、たくさんの方々のご尽力をいただき感謝いたします。

歓迎あいさつ

加計町長
佐々木 清蔵 氏

みなさん、ようこそ加計町にお越しいただき、心から歓迎いたします。

この地球の72%は水だと言われています。私たちの命は水と切っても離れないものです。水がなければ生きていけませんし、水がなければ私たち人類も生まれていなかったと思います。まさに人間は水そのものといつても過言ではないでしょう。

この加計町も滝山川、丁川であるとか、広島に注ぐ太田川の恵みにより成り立っています。

広島市のデルタも太田川の上流から流れた土が海を埋めてできた町です。広島の牡蠣が美味しいといわれるのも、上流の豊かな森からの恵みです。

その一方で、太田川は大変な暴れ川でした。昭和47年の7月には可部線の鉄橋も流され、加計町もそうですが広範囲で大きな被害にあう大洪水がありました。恵みももたらす川も時には人間に被害をもたらす怖い川になるのです。

みなさんが3日間過ごされるこの施設は、以前、温井ダム建設に使用された施設でした。その後、「川・森・文化交流センター」として衣替えし、川の文化、森の文化の交流拠点として、新たな文化を創造するセンターに生まれ変わりました。

この加計町は川と山、森に囲まれたまちで、人間の生きている根源がまさにここに息づいていると思います。どうかこの3日間、貴重な体験をしていただいて、みなさんの今後の成長の大きな糧になるよう心から祈念をして、歓迎の挨拶にかえさせていただきます。

歓迎あいさつ

国土交通省
中国地方整備局 河川部長
久保 省吾 氏

皆さんこんにちは。今日可部線の中から見た川と沿線の景色、いかがでしたか。

今回は、今年3月の「世界子ども水フォーラム」の中で出た、日本の子どもたちによる交流や意見交換をしてみたいという、たくさんの意見を受けて開催されるはじめてのフォローアップ大会です。全国各地から、ここ太田川の上流加計町にお集まりいただき、ありがとうございます。今回の大会では、私達が管理していますこの太田川上流域での生活環境や風習、歴史文化等をフィールドワークで体験いただき、各分科会において、互いの意見をぶつけながら、川や水に対する意識を高めてもらい、参加者それぞれにとって今後の取り組みや活動のきっかけにしてもらえばと考えています。

中国地方整備局では、川に親しんだり、川で学んだりすることができるよう積極的な取り組みを行っています。例えば、中国地方だけでなく、日本全国や海外の水や河川に関心のある子どもたちが、意見交換が行えることを目的としてWeb交流を運用しています。また、今年の2月には、「世界子ども水フォーラム」のプレイベントとして、「中国地方子ども水フォーラム」を開催し、海外と中国地方の子ども達との交流や意見交換も行いました。私達は、今後とも継続的にこのような活動を展開して行こうと考えていますが、そのためには、子ども同士のネットワーク、さらに、子どもをサポートする各地域の市民団体、教育関係者、ファシリテーター等のネットワークをつくり、お互いの活動について広く情報交換していくことが重要だと思っています。そのためにも、今回の大会が大きな役割を果たすものと期待しています。

基調講演 平和と水、広島と水について

実行委員長 中国・地域づくり交流会 会長 平岡 敬 氏



平和と水について語る時、広島と被爆者と水の関わりを思い出さずにはいられません。1945年8月6日、広島に原爆が落ちました。たくさんの人が亡くなり、大勢の人がやけどを負って、焼け野原の中で「水、水」と言いながら倒れていきました。そういう歴史がある広島にとって「水」は大変重い意味をもっています。

私たちはこれから水や川をどのようにとらえ、向き合っていったらいいのか。一つは、水辺をきれいにすることです。川につながる景観、景色を豊かにして、人が触れあい、楽しめる水辺をつくることです。二つめは、水そのものをきれいにすること。山に木を植える、下水道を

整備するなどの具体的なことも大事ですが、まず、自然のありがたさ、大地の恵みを感じる謙虚な気持ちをもつことです。自分だけ豊に暮らせばいいのだという生き方を少しでも変え、ゴミや生活廃水について意識してみてください。自分の回りを見つめ直して下さい。川をきれいにするためには、まず、人間の心がきれいでないといけないと私は思います。他の人の思いやりを持つことが非常に大事です。太田川も、上流での山や森を守る、水を汚さないという努力があって、初めていい水が広島市に流れてくるのです。下流への思いやりがそこにあります。

今回の大会に参加した人は学んだことを自分だけのことにしないで、どうか友達に語り、ネットワークを広げていってください。こういう活動が水というものを身近に、また、大事なものを感じてくるのだと思います。20世紀は「石油の世紀」と言われましたが、21世紀は「水の世紀」と言われています。つまり水は大変貴重な資源になるのだということです。つい忘れないでちな「水の恵み」をもう一度思い出して、その大切さを若い世代に伝えていっていただきたいということをお願いし、期待しております。